私の推薦する本 （ロボット・システムデザイン工学科　森川一）

村上春樹 著『レキシントンの幽霊』 文藝春秋 1996 年 11 月発行

「ハルキスト」と呼ばれる熱心な愛読者のいる村上春樹は，国内外を問わず多くの読者を持つ日本を代表する作家の一人です．村上作品が持つ独特で幻想的な世界観で国際的にも注目され，ノーベル文学賞の候補として例年名前が挙がっています．「ノルウェイの森」に代表される村上作品は長編が多いように感じられてしまうため，初めての方にはハードルが高い印象ではないでしょうか．かくいう私も，長編小説を読み切る自信がないので，比較的短い村上作品を数冊読んだ経験しかありません．今回は，比較的短く読みやすい短編集『レキシントンの幽霊』を推薦します．

この短編集には，日常に潜む不思議な出来事や，人間の心の奥にある孤独を描いた短編が収録されています．表題作であり最初に掲載されている「レキシントンの幽霊」は，主人公が知人の古い洋館で留守番をする一夜で，不思議な体験をし，現実と非現実の境界が曖昧になる展開や，孤独や他者とのつながり，目に見えないものを受け入れることなどの意味が感じられます．村上作品は，読了後に登場人物の心情や物語の意味について考える余地が残されているのが特徴で，短編作品でもその特徴は経験できます．この短編集には，「氷男」等も収録されているので，興味を持ったタイトルの短編から読み進められるでしょう．

忙しい日々の中で，専門の工学書や論文を読むのが精一杯かもしれませんが，人間の心や日常の不思議さに思いを巡らせたい方はもちろん，村上春樹の作品の読み始めに躊躇していた方にも，比較的気軽に触れられる一冊ですので，チャレンジしてみてはいかがでしょうか？

（本文文字数：666字） ■終■